

問1 律令国家が農民に「口分田」を与えた主な目的と仕組みの説明として、最も適切なものはどれか。（2025年 静岡公立入試 類似）

1. 戸籍に基づいて土地を分け与え、その収穫から一定の税を確実に徴収するため。
2. 農民の私有地を認め、さらに開墾した土地を永久に所有させるため。
3. 地方の豪族が所有していた土地を、農民が買い取れるようにするため。
4. 貴族や寺社の勢力を強めるために、広大な土地の管理を農民に委託するため。

問2 奈良時代、聖武天皇は社会の不安を鎮めるために、仏教の力によって国を守るという考えを政治に取り入れました。この思想を何と呼びますか。（2020年 東京都公立入試 類似）

1. 鎮護国家の思想
2. 浄土真宗の教え
3. 国家神道の考え
4. キリスト教の教義

問3 奈良時代末期にまとめられた日本最古の歌集である『万葉集』の特色として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）

1. 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の和歌が収められている。
2. 醍醐天皇の命令によって編集された、最初の勅撰和歌集である。
3. 武士の台頭を背景に、力強い歌風の和歌を中心に集められている。
4. 平安時代の中期に、平仮名を用いて女性の心情を細やかに表現している。

問4 奈良時代の国際交流の様子を伝える資料として、東大寺には当時の宝物を納めた高床式の倉庫が残されています。この建物の名称と、そこに保管されている品々が示す当時の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2019年 徳島公立入試 類似）

1. 正倉院（しょうそういん）には、唐や西アジアの文化の影響を受けた工芸品が納められ、天平文化の国際性を今に伝えている。
2. 法隆寺（ほうりゅうじ）には、日本独自の風土や好みに合わせた国風文化の作品が多く納められ、貴族の生活の様子を伝えている。
3. 鳳凰堂（ほうおうどう）には、浄土信仰に基づく仏像が安置され、平安時代の武士の台頭による社会不安を反映している。
4. 唐招提寺（とうしょうだいじ）には、鑑真が持ち込んだ経典が納められ、遣隋使によってもたらされた仏教文化の広まりを示している。

問5 奈良の正倉院に収められている「螺鈿紫檀五絃琵琶（らでんしたんのごげんびわ）」には、熱帯アジアを原産とする紫檀という木材が使われ、砂漠を歩くラクダの装飾が施されています。このような特徴を持つ宝物が日本に存在する歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 西アジアやインドの文化が、陸上の交易路であるシルクロードを経て中国へ伝わり、それが遣唐使などの往来によって日本へもたらされた。
2. 聖徳太子が派遣した遣隋使が、インドや西アジアの諸国と直接的な外交関係を樹立し、それらの国々から直接輸入したものである。
3. 当時の日本は西アジア諸国と大規模な直接貿易を行っており、主に海路を通じてこれらの豪華な楽器が大量に輸入された。
4. 唐が周辺諸国との交流を遮断していたため、日本は朝鮮半島の新羅を経由してのみ、間接的に西アジアの文化を取り入れていた。

問6 律令国家の地方支配において、日本列島が多くの「国」に細かく区分されていた地理的状況を踏まえ、当時の行政運用の実態について述べた文を選びなさい。（2018年 奈良公立入試 類似）

1. 中央政府からの命令を全国へ一貫して伝えるため、主要な道に駅を置き、国ごとに国府を設けて国司が実務にあたった。
2. 各地方の境界線は明確ではなく、地域の有力者が地頭として独自の判断で境界を定めていた。
3. 九州から東北まで、すべての地域に太政官の出張機関である八省の支局を置き、官僚が直接農作業を指導した。
4. 国司は中央から派遣されるのではなく、その土地に古くから住む豪族が世襲でその地位を独占し続けた。

問7 奈良時代の税制において、現在の島根県にあたる地域から、出雲の絹布や絹糸、石見の紙、隠岐のアワビやイカといった「その土地の産物」が都に納められていたことを示す記録があります。このような、各地の特産品を中央政府に納める税を何といいますか。（2024年 島根公立入試 類似）

1. 租
2. 庸
3. 調
4. 防人

問8 藤原鎌足から不比等へと続く藤原氏の系図において、不比等の娘である光明子が聖武天皇の皇后として記されている時期の文化について、その特色として最も適切な説明を選びなさい。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 遣唐使などがもたらした大陸の文化や仏教の影響を強く受けた、国際色豊かな文化
2. 小野妹子が遣隋使として派遣された時期に、飛鳥地方を中心に栄えた日本最古の仏教文化
3. 藤原頼通が平等院鳳凰堂を建立した時期に、日本の風土や生活に合わせた優雅な国風文化
4. 奥州藤原氏が平泉に本拠を置き、中尊寺金色堂を建立した時期の東北地方独自の文化

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 戸籍に基づいて土地を分け与え、その収穫から一定の税を確実に徴収するため。	律令国家は、戸籍を作成することで人民の数と構成を把握し、それに基づき口分田を配分しました。これによって、農民に納税（租）の義務を負わせ、国家を運営するための財源を安定的に確保しようとしたのです。
問2	<b>答え 1</b> 鎮護国家の思想	8世紀の日本では、疫病の流行や政治的な混乱が続いていました。聖武天皇は、仏教の力によってこれらの災いから国家を守り、安定させようとした。この「仏教が国を守る」という考え方は鎮護国家と呼ばれ、当時の国家的な仏教政策の根幹となりました。
問3	<b>答え 1</b> 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の和歌が収められている。	奈良時代の文化を代表する『万葉集』は、約4500首の和歌を収録した日本最古の歌集です。山上憶良のような貴族や歌人だけでなく、東国の農民の歌（東歌）や、九州の警備に当たった人々の歌（防人の歌）など、身分を問わず当時の人々の素直な感情が詠み込まれている点が最大の特徴です。
問4	<b>答え 1</b> 正倉院（しょうそういん）には、唐や西アジアの文化の影響を受けた工芸品が納められ、天平文化の国際性を今に伝えている。	東大寺の正倉院には聖武天皇の遺愛品をはじめ、遣唐使が持ち帰った数多くの宝物が保管されています。これらの品々にはペルシャ（イラン）風の模様が施されたガラス器や、唐で作られた楽器などが含まれており、当時の日本が大陸との交流を通じて遠く西方の文化とも繋がっていた「シルクロードの終着点」であったことを象徴しています。
問5	<b>答え 1</b> 西アジアやインドの文化が、陸上の交易路であるシルクロードを経て中国へ伝わり、それが遣唐使などの往来によって日本へもたらされた。	奈良時代の日本は遣唐使を派遣し、当時世界の中心の一つであった唐（中国）の文化を積極的に取り入れました。唐はシルクロードを通じて西アジアやインドと盛んに交流していたため、それらの地域の文化や物産が唐に集まっていた。日本は唐を経由することで、間接的に遠く離れた西アジアやインドの国際色豊かな文化（天平文化）を享受することができたのです。遣唐使による直接輸入や、当時の日本が西アジアと直接海路貿易を行っていたという事実は確認されていません。
問6	<b>答え 1</b> 中央政府からの命令を全国へ一貫して伝えるため、主要な道に駅を置き、国ごとに国府を設けて国司が実務にあたった。	律令国家は、細かく分けられた各国の拠点に「国府」を置き、中央から派遣された国司がそこで政務を行いました。中央の太政官からの命令を迅速に伝え、地方の情報を吸い上げるために交通網も整備されました。なお、国司の下で実務を支えた郡司には現地の豪族が任命されましたが、国司自体は中央から派遣される官吏であり、世襲ではありません。
問7	<b>答え 3</b> 調	奈良時代の律令制度のもとでは、民衆に対して様々な税が課せられました。このうち、布や紙、各地の海産物といった「地方の特産品」を都まで運んで納める制度を「調」と呼びます。現在の島根県（出雲・石見・隠岐）から納められた品々が多様であるように、全国各地の地理的特性に応じた物品が徴収され、都の貴族の給与や政府の運営費用に充てられました。
問8	<b>答え 1</b> 遣唐使などがもたらした大陸の文化や仏教の影響を強く受けた、国際色豊かな文化	聖武天皇の皇后である光明子（光明皇后）が活躍した奈良時代中期の文化は天平文化と呼ばれます。この時期は、遣唐使によって唐の進んだ制度や文化だけでなく、シルクロードを経由して西アジアやインドの文化も日本に伝わりました。また、聖武天皇が仏教の力で国を治めようとした「鎮護国家」の思想に基づき、東大寺の大仏などが造られたことも大きな特徴です。